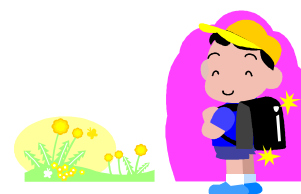


## ほほえみ 第17号



新年度を迎え、新たな気持ちで、がん薬物療法に取り組んでいきたいと思ひます、スタッフ紹介の項目にもありますように、4月より、伊藤祝栄先生が当科に加わります。全国でも、スタッフの平均年齢÷外来化学療法件数というような計算をすると、最もフレッシュな診療科かもしれません。これまで、チーム医療やがん哲学外来、メディカル・カフェなど様々な取り組みを行ってまいりましたが、更に若い世代の感性を取り入れていきたいと思ひますし、新渡戸稲造先生の、生誕150周年でもあり、温故創新の気概で臨みたいと思ひますので、宜しくお願ひ申し上げます。

## 新渡戸稲造と岩手県立中央病院

新渡戸稲造記念 がん哲学外来、メディカル・カフェを通して、新渡戸稲造(以下、稲造)の事跡を学ぶ機会が増えました。その中に、組合病院の運動がありますが、実は当院の成り立ちと切っても切れない縁があることがわかりました。歴史家ではないことをお断りした上で、概略をご紹介しますと存じます。



新渡戸稲造



賀川豊彦

稲造は、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学から、一層の学問研鑽のため、1887年から1890年にかけて、ドイツに留学します。当時、ライファイゼンの提唱した信用組合が、「一人は万人のために、万人は一人のために。」というモットーを掲げて当地で大きな成果を上げており、稲造も学んだと思われまふ。一方、組合病院を語る上で、賀川豊彦(以下、賀川)の名前は真っ先にあげられるべきであり、欧州では「ガンジー・シュバイツァー・賀川」と並び称されますが、何故か日本では忘れ去られた人と言えまふでしょう。賀川はクリスチャンで社会運動家であり、キリスト教の伝道とともに、貧民の救済を行い、多方面での社会運動を組織しておりました。その賀川と稲造の出会いには1925年に訪れまふ。

賀川は初めての欧州旅行の途上、ジュネーブを訪れまふ。当時、稲造は国際連盟事務局次長で、オランダ諸島の領土紛争の裁定を行い、ベルグソン、キュリー夫人、アインシュタインらが参加した「知的協力委員会」(後のユネスコ)の設立に功績を挙げて、「ジュネーブの星」と称されていまふ。稲造は自邸で賀川歓迎午餐会を開き、意見を交わしまふ。当時、最も欧米人に良く知られた2人の日本人の出会いです。その後、1926年末に、稲造は国際連盟事務局次長を辞めて、帰国の途につかまふ。

約6年が経過し、1931年1月、稲造は産業組合中央会岩手支会長に、民選初代の支会長として就任しまふ。慣例では支会長は官選の知事が行うのですが、郷土の偉人として異例の登板であったといえまふ。就任の際には、「名ばかりの支会長を引き受けたのではない。私はいったん引き受けた以上はできるだけの奉仕を郷土に返したい。」と強い意欲を述べていまふ。同時期に、賀川は稲造に東京医療利用組合の設立に力を貸してくれるように依頼し、組合長に稲造を推しまふ。1932年5月、稲造は、東京医療利用組合の初代組合長に就任。新宿に診療所を設置。これが現在の、東京医療生活協同組合 中野総合病院の前身となりまふ。因みに、同院には「新渡戸記念 訪問看護ステーション」があります。

この当時、組合病院の設立の機運が盛んだった地は、東京の他は岩手県と秋田県でした。秋田では東京に先立って病院設立の運動があつたようです。しかし、当時の医師会の反対が強かつたらしく突破口が開けなかつたようです。実際には、東京の組合病院の設立には、稲造の影の働きかけが大きかつたと言われていまふ。東京での認可が追い風となつたと思われまふが、1933年3月に産業組合が盛岡市紙町にあつた既存の病院を買い上げて、5月に、有限責任購買利用組合盛岡病院が発足していまふ。その後、名称が何度か変わり、1950年4月、県営移管となり、1960年、岩手県立中央病院に改称。現在の場所に移転したのは、1987年です。組合病院設立から数えると、79年が経過していまふ。

樋野先生からは、当院に新渡戸稲造記念 がん哲学外来があるのは、故なきことではないと言われておりましたが、正に「歴史に学ばなければ、歴史が教えにやってくる。」の実例であると思われまふ。一層、新渡戸稲造記念が身近に感じられました。当院の設立に、新渡戸稲造、賀川豊彦という、2人の偉人の企てが機縁になつていたとは、驚きではありませんか。



1950年当時の様子

## スタッフ自己紹介

「はじめまして」

名前は伊藤 祝栄です。昭和61年1月10日生まれの26歳です。  
今年度の春から、がん化療科の一人として診療に携わっていきます。  
平成24年2月に一ヶ月だけ、外来にお邪魔しました。お会いした方も  
多いかと思えます。

自分が、いわゆる腫瘍内科を目指したきっかけは、研修医1年目の9月  
に呼吸器科を研修した時にさかのぼります。肺炎等で入院のイメージが  
強い呼吸器科ですが、実際は主に肺がんの入院化学療法をしています。

そこで、自分が患者さんと関わっていくなかで、一緒になって、抱えている問題を少しずつ解決していく過程にやり  
がいを感じました。時には解決できないこともあります。悩んで、自分にできることを提供することが、何もできない  
研修医なりに誇れることでした。

その後、様々な科を研修しましたがやはり呼吸器科での患者さんとの関わりが、自分の体験として鮮烈に記憶に  
残っていました。肺がんに限らず、さまざまながんと向き合うためにがん化療科で勉強していくことに決めました。  
みなさんと一緒に相談しながら、診療していきたいとおもいます。4月からよろしく願いいたします。

伊藤先生は、地元の盛岡一校出身で生粋の岩手県人です。化学療法の専門医を目指して今年度から本格的な研  
鑽を始めます。一人一人の方の治療を最善を尽くして行うことが、専門医には最も近道であろうと思います。至らない  
ところもあるかと存じますが、温かい目で見守っていただければと存じます。因みに、昭和61年というと、私は医学部  
の学生でしたね。次の世代の息吹きを感じました(加藤)。



## チューリップ雑感



春の花というと、桜、水仙、クロッカスの他に必ずチューリップが入ってくると思  
います。私の出身地の富山県の県花はチューリップです。実に全国のチューリップの  
球根の生産の53%を占めています(新潟県と加えると98%)。幼稚園児が最初に  
習う唄も、「ちゅーりっぷ」です。また、チューリップというとオランダが有名ですね。  
様々な色、形のチューリップがあり、混ぜて植えても、一面に揃えても綺麗な花だ  
と思えます。

17世紀のオランダでは、変り種のチューリップのマニアが沢山いたようで、価値の  
高い品種の球根は、同じ重さの黄金と取引されたとも言います。バルザックに「絶対  
の探求」という小説があります。主人公のバルタザールは富裕な貴族ですが、絶対  
の探求のため、仕事や家庭を省みず、財産そして秘蔵のチューリップの球根も売り  
払って、「絶対」を求めるのです。狂気の錬金術師のような設定ですが、この当時の  
変り種チューリップは多くがウイルス感染によるものであり、形質が安定しないもの  
だったようです。変り種のチューリップに執着する人々、そのチューリップを売って、  
絶対を探求しようとするバルタザール。美しいチューリップの取引を通して、人間の  
性が鮮烈に描き出されているように思いました(加藤)。



バルザック像 (ロダン)

## MEMO

### 4月のがん化学療法科の予定

4月13日 柴田教授外来  
4月20日 柴田教授外来  
新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ  
4月30日 振り替え休日



### 今年の桜の開花予想

4月23日



掲載記事の無断転載を禁じます